

## 学校運営協議会 会議実施報告書

このことについて、「岐阜県立学校における学校運営協議会の設置等に関する規則」第8条第1項に基づき、次のとおり学校運営協議会を開催しましたので、その概要について報告します。

- 1 会議名 高山工業高等学校 学校運営協議会 (第1回)
- 2 開催日時 令和5年5月31日(水) 13:15~15:30
- 3 開催場所 高山工業高等学校 会議室  
開催にあたり、委員による授業参観を実施した
- 4 参加者
 

会 長	作倉 康也	高山工業高等学校 育友会長
副 会 長	住田 慶太郎	千島町内会 副会長 (欠席)
委 員	中野谷 康司	高山市教育委員会 教育長
	見山 政克	高山市立日枝中学校 校長
	多田 仁	高山市立花里小学校 校長
	中田 和子	高山商工会議所 女性会 会長
	岡田 明子	飛騨木工連合会理事 飛騨産業株式会社 代表取締役社長 (欠席)
学 校 側		
	岩島 義則	校長
	足立 宏	教頭
	三田 真弓	事務長
	大坪 博孝	教務主任
	高橋 佑介	生徒指導主事
	新家 邦男	進路指導主事
	門前 雅人	工業部長

## 5 会議の概要(協議事項)

- (1) 学校経営方針・学校経営計画・学校運営組織・教育課程について
- (2) 指導の重点と自己評価について
- (3) 学習について

意見1：清掃が行き届き最新の設備がある恵まれた環境で、専門的で高度な内容の学習ができています。(多数)

意見2：少人数の授業は、生徒への指導や主体的な実習に対して有効的である。

意見3：就職後は人間関係の構築していく力が必要となる。コミュニケーションが苦手な生徒に対しては、質の高いものづくりをして周囲に認めてもらうことが自信につながり、人間関係の構築の礎となる。今後も授業等の学校生活の中で生徒のコミュニケーション能力の育成を続けてほしい。

意見4：実習等では事故には細心の注意を払ってほしい。

意見5：飛騨地区で唯一の工業科高等学校であり、地域のものづくりを支えるために必要な

学校である。

(4) 生徒の様子について

意見1：ロボットの仕組みを分かりやすく説明した生徒の様子や、製図に真剣に取り組む生徒の姿を見ると、各自が明確な目標を定め学習していることが分かる。

意見2：良い地域にするために志を持ってマナーズ・スピリット リーダーズ活動に志望した本校の生徒の新記記事や、生徒会の校則の見直しの行動を見ると、生徒の主体性が育成されていることが分かる。

意見3：今年度は地域の小学生へ自分から挨拶をする生徒の数が非常に多くなっている。

(5) 高等学校卒業後の就職について

意見1：本校の生徒の就職者と進学者はどのような割合か。

⇒ 近年は、おおよそ7割が就職者、3割進学者である。

意見2：本校の生徒に対する求人はどのような状況か。

⇒ 一昨年の求人倍率は1.5倍、昨年度の求人倍率は2.6倍と急増している。今年度も同様以上の倍率が予想される。

意見3：本校の卒業生は地域に就職しているのか。

⇒ 地域への就職の割合が最も多いのは本校である。進学者に対しても高山市等と連携し地元への就職のために支援したい。

(6) 地域連携について

意見1：昨年度まで実施していた中学生のためのロボットプログラミング競技会を復活するため、県に予算を要請してほしい。

⇒ 令和3年度はスーパー・インクワイアリー・ハイスクール事業の取組として実施した。令和4年度からは、地域連携による活力ある高校づくり推進事業の取組として実施してきたが、予算の減少及び他の取組への予算の配分により今年度は実施できない。

意見2：今年度実施予定の中学生に対する新聞作成はよい取組である。期待している。

6 会議のまとめ

- ・第1回学校運営協議会では、全委員より今年度の本校の学校運営計画を踏まえた学校運営基本方針について承認が得られた。
- ・小学生を対象としたプログラミング事業など、地域と連携した各種事業について、委員から評価を得られた。
- ・本校が地域から求められていることは、地域を支えるものづくり人材の育成であることを委員と共に再認識した。